

# おっぱいだより

18号

今年は春が来るのが例年よりもゆっくりでしたが、だんだん暖かくなり春めいてきました。新規採用者の方を迎え、病院全体もフレッシュな感じになっているのではないのでしょうか。

さて、今月の28日・29日に「BFH:赤ちゃんにやさしい病院」認定のための訪問審査があります。病院でみかけた、またはそばにいる、赤ちゃん連れの方や妊婦さんをちょっと気遣うだけでも「赤ちゃんにやさしい病院」の第1歩です。

## BFH:赤ちゃんにやさしい病院って何?

ユニセフ・WHOは「母乳育児を成功させるための10カ条」を掲げて母乳育児を推進しています。厚労省も母乳育児をすすめています。もともとは衛生状態のよくない発展途上国で不衛生な人工乳で命を落とす子どもたちが多くいたことから、母乳育児をすすめる運動が広まりましたが、母子の愛着形成、免疫などの点からも母乳育児が見直され、現在では世界中で「BFHI:赤ちゃんにやさしい病院運動」として広まっています。その運動の目的は母乳育児を当たり前のもので支持する保健医療環境をつくり、すべての赤ちゃんに人生が始まるにあたって最高のスタートが切れるようにすることです。そして、母乳育児を支援する実践を成し遂げている医療施設を「BFH:赤ちゃんにやさしい病院」として認定しています。



## 薬剤師さんが答えるお薬質問箱

### 授乳と薬剤について

授乳中のお母さんは医薬品の使用について悩んでいることが多く、また医療者側も説明に苦慮することが多くあります。慢性疾患で薬を服用しているため母乳育児を断念したり、急性期の疾患でも授乳を理由に薬を使用せずに我慢するお母さんもいます。今回は授乳中のお母さんが服用する機会の多い薬剤の中から風邪薬への質問について紹介します。

**Q: 風邪をひき、薬(PL、カロナール)を処方してもらったが、飲んでいいか不安。薬が赤ちゃんに移ることは?**

**Q: 頭痛と発熱で市販薬を飲みたいけど、母乳はどうすればいいの?**

**A: 赤ちゃん自身が風邪にかかったときに小児科で処方される薬の量に比べ、母乳に出る薬の量は非常に少なく、赤ちゃんに影響が出る可能性は低いと考えられます。また実際に赤ちゃんに困った副作用がでたという報告はほとんどありません。月齢の大きい赤ちゃんは食事に占める母乳の割合があまり大きくありませんので、より影響が少ないと考えられます。風邪をひいているお母さんの母乳には、その風邪のウイルスに対する免疫がたくさん含まれており、赤ちゃんが風邪にかかるのを予防したり、かかっても軽くしたりする働きがあります。人工乳に変えてしまえば赤ちゃんは免疫を得られなくなります。授乳できないほど重症でなければ、母乳をあげても心配はないと思われます。(判断に迷う場合は薬剤師にご相談ください)**

